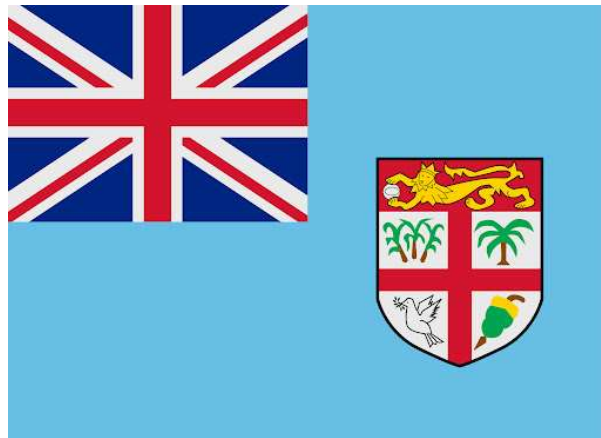


# JICA 海外協力隊 赴任前留意事項

## フィジー共和国



※本資料に記載の情報は、作成日現在のものであり、その後状況が変化している場合があります。記載内容については正確を期していますが、万が一誤りがあった場合には JICA は責任を負いかねますのでご了承ください。

※本資料は JICA 海外協力隊を対象としたものであり、その他の方には該当しない情報も含まれている可能性があります。

## 目次

1. 赴任時の携行荷物について
2. 別送荷物について
  - (1) アナカン・郵送等の利用について
  - (2) 通関情報について
3. 通信状況について
  - (1) パソコンの普及状況
  - (2) インターネット接続環境
  - (3) 携帯電話の普及状況
4. 現金の持ち込み等について
  - (1) 現金持込にかかる注意
  - (2) 両替状況
  - (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について
5. 治安状況について（JICA の安全対策については、隊員ハンドブックを参照）
6. 交通事情について
7. 医療事情について
  - (1) 国内医療機関について
  - (2) 歯科治療について
  - (3) 感染症について
  - (4) 医療保険について
  - (5) 医薬品、医療機器について
  - (6) 予防接種について
8. 防蚊対策について
9. 任国での運転について
10. お問い合わせ
11. その他

## 1. 赴任時の携行荷物について

※JICA 海外協力隊ハンドブック「3-5 出発時の注意事項」を必ず確認の上、ハンドブックに記載されている「手荷物として持参するもの」に加えて、以下を持参ください。

### 【赴任時に必ず持参するもの】

- 受入確認レター（派遣直前にメールにてお送りします。）
- パスポートケース（首下げタイプを推奨）
- 現金（日本円可）、クレジットカード等
- JICA 海外協力隊ハンドブック、国際協力共済会会員ハンドブック
- 本籍地の情報など（在留届等に必要）
- ノートパソコン
- 訓練所で接種したワクチン記録（Health & Medical Record）及びそれ以外の記録  
例：麻疹/はしかワクチン（MR または MMR、腸チフスワクチン）

### 【注意事項】

- 赴任後 2～3 週間間に必要な日用品は手荷物として持参してください。一般的な生活用品は現地で購入可能です。薬局で市販薬は入手できますし、病院で基本的な診療と医薬品の処方が可能です。日本で常用している薬がある場合は各自持参してください。なお、コンタクトレンズや付属品はフィジーでは入手困難ですので、必要なものは予備を含めて日本から持参してください。

- 赴任後、関係機関（日本大使館や政府機関）への表敬訪問を実施予定ですので、公式の場に適した服装を持参してください。ジャケットやネクタイ、革靴等は不要ですが、Y シャツ、ブラウス、長ズボンやスカートを持参してください。フィジーではアイランドフォーマルも正装となりますので、Bula Shirts（ブラシャツ＝アロハシャツ：右図参照）の着用も可能です。着任後すぐに購入できます（P11 参照）。



- なお、JICA オフィスへいらっしゃる際はタンクトップ、短パン、ビーチサンダルの着用は不可としております。
- 入国時の通関では X 線検査があり、場合によっては荷物を開封されますので、食品を所持している場合には必ず申告してください。当国では家畜・植物防疫の観点から、肉類・卵を含む食料品やハチミツの持込みは禁止されていますのでご注意ください。これらが含まれていると、申告をしても没収されることがあります。また申告をせずに持ち込んだ場合は罰金を科せられることもあります。

<参照 URL> <http://www.baf.com.fj/cooperations/animals-and-animal-products>

## 2. 別送荷物について

### (1) アナカン・郵送等の利用について

荷物の送付方法には、小包郵便(航空便、船便)、EMS(国際スピード郵便)、アナカン(航空別送荷物)、国際宅急便(DHL・FedEx等)、海上輸送があります。赴任時に荷物を送られる際は、ご自身がフィジーに到着された後に届くよう、手配してください。また JICA 事務所宛てに荷物を送った場合は、事前にボランティア班共有アドレス(P11 参照)にお知らせください。

#### ① 国際郵便(EMS、小包郵便)

日本国内の郵便局で手続きし、宛先は JICA フィジー事務所の私書箱にして下さい。EMS サービスの有無、小包郵便や EMS の重量制限は郵便局でご確認ください。

通常時であれば、所要日数は、EMS が約 1 週間、船便は早ければ 1 か月、遅い場合は 2 か月以上かかる場合もあります。なお、フィジー国内での受取りには手数料がかかります。内容物およびそれに係る保険内容によっては高い関税がかかることがあります。また、基本的にご本人がフィジーの郵便局に取りに行き、身分証明書を提示して引き取ります。代理人の受取りには、受取人の署名入り委託レターが必要になるなど手続きが煩雑になります。

<参照 URL> <https://www.post.japanpost.jp/int/ems/>

#### ※郵便局の国際郵便や手紙・小パック等の郵便物を送付する場合の宛先(私書箱)

Mr. or Ms. 自分の名前 (隊次)  
c/o JICA Fiji Office  
JICA Private Mail Bag, Suva, FIJI

#### ② 国際宅急便(DHL・FedEx等)

所要日数は 1 週間程度で、安全かつ迅速に荷物を送ることができます。郵便局の国際郵便に比べて費用は割高です。また通関手続き(フィジーの宅配会社から電話等で確認あり)はご自身で行っていただきます。なお、日本の(DHL、FedEx 以外の)宅配業者でも首都スバに限り送付可能な会社がありますので、最寄りの業者にお尋ねください。宛先は JICA フィジー事務所の所在地住所としてください。

#### ※国際宅急便(DHL等)、アナカンを送付する場合の宛先(所在地住所)

Mr. or Ms. 自分の名前 (隊次)  
c/o JICA Fiji Office  
Level 8, BSP Suva Central Building, Corner of Pratt Street and Renwick Road, Suva, FIJI

#### ③ アナカン(航空別送荷物)

通関業者を通し安全で確実に荷物を送ることができますが、輸送料に加え通関手数料等がかかるため、100kgを超えるような荷物でなければあまりメリットはありません。荷物の重量と重要度を考慮の上、アナカンを利用する場合は出発 2 週間ほど前から手続きを開始してください。宛先は JICA フィジー事務所の所在地住所(上記)としてください。

## (2) 通関情報について

免税措置が受けられるのは当地到着(赴任)後 6ヶ月以内です。それ以降は内容物によって税金(関税+付加価値税)がかかります。

赴任直後の荷物受取りにおいて、内容物の申請額が高額だったため通関手数料の支払い(数万円)を必要としたケースがあります。申請額は損害保証額との兼ね合いもありますが、記入の際にはご注意ください。

## 3. 通信状況について

### (1) パソコンの普及状況

ノートパソコンは、事務所からの E-mail での連絡、各種提出書類の作成・送付等に必要ですので必ず各自でご持参下さい。また、故障に備えて付属の CD-ROM など再インストールに必要なものを持参してください。デスクトップ、ラップトップ、周辺機器は現地で購入できますが、価格は日本より割高なことが多いです。また、日本語の OS およびソフトは購入できません。

### (2) インターネット接続環境

インターネットは、これまで隊員が派遣されている地域では利用可能で、下記の方法があります。ご自身のインターネット利用状況に合わせて選択ください。

- 1) ご自身のスマートフォン(SIM フリー)に現地SIMを入れ、データ通信プランを購入して利用、他のデバイスにはテザリングをする。スマートフォンがSIMフリーかどうかは各自でご確認ください。
- 2) モバイル Wi-Fi(15,000 円程度)を購入し、データ通信プランを購入する。
- 3) ルーター(10,000 円程度)を購入し、データ通信プランを購入する。

データ通信プランは購入金額によって、使用可能データ量や有効期限が異なります。詳細は現地キャリア(Vodafone Fiji, Digicel Fiji, Telecom Fiji)の公式 HP にてご確認ください。

1)の方法で運用する場合 1ヶ月 FJ\$25.00~35.00 で、一般的な使用量であればインターネット通信費用と電話代をまかなうことができます。

### (3) 携帯電話の普及状況

隊員が派遣されている地域には、固定電話および携帯電話が普及しています。業務連絡・緊急連絡等を目的として、JICA 事務所より隊員全員に携帯電話を貸与しています。

なお、事務所から貸与する携帯電話は最低限の通信手段を確保することを目的としているため、非スマートフォンです。ご自身でお持ちのスマートフォンに、事務所から貸与する SIM カードを入れて利用することもできますので、着任時オリエンテーションにて説明します。

スマートフォンは IMEI ナンバーを控えておかれることをお勧めします。万が一盗難被害に遭った際に、警察による追跡が可能になります。IMEI は携帯電話の電話番号入力画面で「\*#06#」と入力することで確認が可能です。

## 4. 現金の持ち込み等について

### (1) 現金持込にかかる注意

現金の持ち込み制限があり、フィジードルおよび外貨の合計額 FJ\$10,000 を超えると税関申告の必要があります。

### (2) 両替状況

空港、銀行および両替商で、日本円・米ドル・豪ドルの現金を現地通貨に両替可能です。  
最新の為替レートはこちらでご確認ください。→[Lotus Foreign Exchange Fiji \(lotusfx.com\)](http://Lotus Foreign Exchange Fiji (lotusfx.com))

### (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について

#### 【全員対象】

赴任時には、家賃の1か月分の保証金(スバ市隊員 FJD2,000 程度、スバ市以外隊員 FJD1,600 程度、入居する住居によって異なります)をご準備ください。また、着任後の生活用品、家電等の購入費を持参してください。

#### 【長期隊員の方】

赴任日から現地生活費支給までの数日分の生活費を持参してください。

#### 【任期が180日を超える短期隊員の方】

半年分の生活費を持参してください。

#### 【任期が180日以内の短期隊員の方】

任期中の現地生活費を持参してください。

#### 【住居について】

住居は原則として、先方政府や配属先機関が提供することになっていますが、やむを得ない場合は JICA が選定します。すべての住居は事前に JICA が安全面をチェックした上で赴任直前に決定します。(早期の確保は困難であるため、住宅に関する問い合わせはお控えください)。

赴任後、隊員本人が賃貸契約をし、配属先または JICA が毎月の家賃を支払いますが、入居時に必要となる保証金(敷金)は隊員が支払います。

提供される住居設備の基本は机と椅子、ベッド枠であり、その他の生活に必要な物品は現地生活費に含まれているため、各自で揃えることが前提となっています。テレビ、洗濯機、マットレス、冷蔵庫、食器や調理器具など、備え付けであれば使用可能です。備え付け家具家電が破損した場合の修理や買い替えは契約書に沿っての対応となります。契約書に明記のない場合、隊員の負担となりますが、家電購入費は支給済みの移転料(96,500 円)や支度料(90,000 円)、現地生活費に含まれているので、その中から捻出してください。ただし、大家の負担で直すことは妨げません。隊員にとって不要な家具家電が設置されている場合は大家に返却する等で修理責任が隊員に発生しないようにしてください。

## 5. 治安状況について(JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照)

都市部を中心として治安は年々悪化しており、外国人だけでなく現地の方も、スリ、ひったくり、空き巣、強盗といった犯罪に逢い、近年では性犯罪も増加しています。また、JICA関係者も上記被害に遭遇しています。コロナ禍では各種行動制限があり、犯罪件数は減少していましたが、緩和とともに増加傾向にありますので、自己防衛を常に念頭に置いた行動が必須です。JICAの各在外事務所には「安全対策措置」が設けられており、JICA関係者は遵守義務があります。

- スリや空き巣、ひったくりといった軽犯罪が年々増加しています。近年では車両を狙った犯罪(車上荒らし、路上駐車等での強盗等)も起こっています。日常から犯罪のターゲットにならないように、貴重品を見せない、不必要に持ち歩かないなどの注意が必要です。
- JICA関係者の犯罪被害の多くは夕方～深夜にかけて発生しており、夕方であっても人通りの少ない場所には単独では行かず、夜間の外出は極力避け、やむなく夜間に外出する際にはグループ行動を行ってください。特に女性の場合、単独での夜間の外出は絶対に控えてください(ナンディで、地元のグループに誘われた邦人女性が殺害されるという事件が2012年に発生、2016年には旅行中の邦人女性が日曜日の朝強姦未遂に遭っています)。
- フィジー国内では現地人男性も性犯罪事件の被害者になっています。
- 夜間の移動は近距離であってもタクシー利用が必須です。乗り降りの際にひったくり等の被害に遭わないよう、周囲の安全を確認した上で速やかに乗降し、目的地の玄関のドアの前まで車をつけてください。JICA関係者住居の敷地内でのひったくり事件も発生しており、また、バスターミナルでのスリ被害なども多いです。
- 外国人の政治活動は禁じられており、違反者に対しては滞在・居住許可が取り消されるほか、退去強制処分もありえます。
- 麻薬の所持および原料となる植物の栽培は懲役刑(最高無期刑)となり、外国人といえども例外的な扱いはありません。最近では麻薬犯罪が増加しているほか、報奨金目当てに麻薬類を観光客に売りつけた直後に密告するようなケースがあるため、一切関わらないようにしてください。また所持者が見知らぬ人に薬物を渡す事例もあるため、他人はもちろん、仲良くなった現地の人への依頼でも安易に荷物を預からないようにしてください。
- JICA関係者には赴任時に犯罪被害の事例を紹介し、注意を呼びかけています。また、全隊員に業務連絡・緊急連絡用の携帯電話、サイレン付メガホン、携帯アラームを貸与しており、住居の安全対策強化のために、鍵の補強、防犯格子の設置等の支援を行っています。被害情報があった場合は、不定期に関係者全員に注意喚起のメールをお送りしています。

## 6. 交通事情について

- スバ市内のバス料金は2024年3月現在、FJ\$1.02です。バスの乗車にはプリペイド式のバスカードが必要です。現金は基本的には受け付けてもらえません。バスカードはオリエンテーション中に発行手続きを行います。

参考：[Vodafone Fiji - eTransport](#)



- タクシーは2024年3月現在、基本料金がFJ\$2.00で1km/1FJDで従量課金されていきます。タクシーのナンバープレートはナンディ・ラウトカ圏の場合、青色プレートでNDもしくはLKから始まり、それ以外の地域については黄色プレートでLTから始まります。



- 市内、都市間など、陸路の移動はバス(民間企業数社が運行)が一般的です。



←市内バス基本窓なし



←都市間バスエアコン付

- Vitiminiと呼ばれる民間企業が運航している小型バスは事故多発のため利用を禁止しています。また、乗り場付近には多くの人が集まっていますので、不用意に近づかないようご注意ください。



- 離島への移動には複数の国内航空路線があります。島嶼間はフェリーや小型のボートが運航しています。フェリーの場合、「バスターミナルから出発港までの陸路+港間のフェリー+到着港から目的地のバスターミナルまでの陸路分」の一連のチケットが販売されており、事前のチケット購入が必要となります。



- 隊員の車両運転(自動車、自転車、バイク等)は禁止です。



## 7. 医療事情について

### (1) 国内医療機関について

都市には国立・私立の総合病院があり、急性期治療や重症疾患の治療が行われています。地方においては初期治療を行う公立のヘルスセンターがあります。しかし、全体的に医療の水準（医療設備、技術、診断能力や医療の質）は日本と比べると決して高いとは言えません。従って、日頃からの健康管理が大変重要で、安全と同様に「自分の身は自分で守る」よう、赴任前から意識づけるよう心がけてください。また赴任中に傷病があった場合は早めの対応（受診、相談）を心がける必要があります。

難しい治療や、正しい診断が付けられない疾患の場合もあるため、風邪や胃腸炎等の軽症以外の病状は首都での受診が望ましいです。

### (2) 歯科治療について

首都スバにある私立クリニックは比較的日本と遜色ない治療を受けることはできますが、予約が困難な上治療費は高額です。日本で定期検診や齲歯の治療を終了させてから赴任しましょう。

### (3) 感染症について

フィジーの風土病には、雨期に罹患者が多くなるデング熱、洪水やサイクロン発生後に発症している腸チフス、レプトスピラ症などがあります。その他、食中毒、下痢症等の消化器疾患、インフルエンザや風邪の呼吸器疾患も発生します。

狂犬病はないと言われていますが、野犬や放し飼いの犬が多く、犬やその他の動物咬傷への対策が重要です。

### (3) 医療保険および医薬品について

海外協力隊員は必ず国際協力共済会（以下、共済会）に加入してから派遣されていますので、任国で受診した医療費等は共済会へ申請後、査定の上支払われます（既往症や歯科治療費等は給付制限があります）。医療費はご自身で立て替え払いの上、共済会へ申請となります。振込先は日本の銀行口座となりますので、ご自身の日本の銀行口座の詳細（振込先金融機関、口座番号）はわかるようにどこかに控えておきましょう。共済会の概要及び補償内容については「国際協力共済会ハンドブック」を参照して下さい。

フィジー国内で入手できる薬剤は種類も数も限られています。日本製の医薬品は入手できません。既往症や生活習慣病で継続して受診や投薬が必要な方は必ず英文の診断書や薬剤情報を持参してください。日本のような胃薬、整腸剤、目薬などの市販薬も販売していますが、日頃から使い慣れた薬は持参するとよいでしょう。血圧計、体重計、血糖測定器などは購入可能ですが、日本より高額で質もよくありません。婦人体温計は入手不可能ですので、必要な方は本邦で購入してください。

<フィジーへ持参した方が良い医薬品等>

種類	商品名	写真	持参理由
解熱鎮痛剤 (アセトアミノフェン)	タイレノール、カロナールなど		発熱時はこの薬剤しか使用できない。(現地で購入可能)
胃薬	総合胃腸薬：キャベジンコーワα、太田胃酸A錠、等		水や食事の影響で胃腸障害を起こしやすい。⇒ 色々な胃薬の成分が、症状を考慮しバランスよく配合されている。
鎮痛鎮痙剤：ブスコパンA錠、ストパン等			胃痛、腹痛、さしこみ痛を鎮める。
整腸剤	エビオス錠、新ビオフェルミンS錠、ザ・ガード		腸内細菌の環境を整える。
総合感冒薬	パブロンゴールド、PL顆粒など		総合感冒薬は入手できないことが多く、軽症の感冒症状に利用できる。

うがい薬	イソジン うがい薬等		口腔内のウイルス量が減少するので感染症の予防になる。
防蚊（虫）対策グッズ	虫よけスプレー：DEET（虫よけ剤）高濃度のものが良い。  部屋用対策：ワンプッシュ型があると良い	 <p>DEET30%の虫よけスプレー部屋スプレー　ダニスプレー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デング熱等流行するので、防蚊対策が重要。（虫よけは現地で購入可能）</li> <li>・ダニや南京虫（トコジラミ）も多いことからスプレータイプのスプレーを持参すると良い（現地では購入不可）</li> </ul>
皮膚の軟膏	皮膚炎、痒み止め		虫刺されによる痒み、湿疹、かぶれ、あせもに効果的（同様の成分配合のクリームは現地でも購入可能であるが、1つ持参して常備すると良い）
体温計 婦人体温計	電子体温計		発熱時に体温測定ができるように備える。

その他、必要に応じて、持病の薬剤、湿布薬（消炎鎮痛剤）、酔い止め、痔の座薬、コンタクトレンズおよび洗浄液・保存液、目薬、サプリメント、歯ブラシ、歯間ブラシ、日焼け止め等用意して下さい。

#### (6) 予防接種について

発症がみられない狂犬病以外のワクチンはフィジー国内で接種可能ですが、在庫が不足している場合もあります。

フィジーやその他の大洋州では麻疹や水痘、風疹が流行します。日本で麻疹や水痘ワクチンを2回接種した記録がない方、または記憶がない方、麻疹・風疹に罹患したエピソードがない方は着任前にワクチン接種しておくことを強くお勧めしています。またワクチン接種記録・抗体検査結果は英文の証明書を作成してもらい、持参することをお勧めします。

また腸チフスワクチンはできるだけ日本で接種してから赴任しましょう。対象者には、派遣中にB型肝炎ワクチン、破傷風ワクチン、流行に応じてインフルエンザワクチンの接種をアレンジしています。

### 8. 防蚊対策について

蚊を介して感染するデング熱はフィジー全土に感染リスクがあります。虫よけスプレーやローション、蚊帳、蚊取りグッズ（電子タイプ、線香）等の防蚊対策物品は現地で購入可能です。ただし、虫よけスプレーは日本に比べて刺激が強いものもありますので、皮膚の弱い方やアレルギーをお持ちの方は日本で使い慣れているものを持参されることをお勧めします。

### 9. 任国での運転について

自動車、自転車、バイクの使用は全面的に禁止しています。また、任国外旅行での自動車、バイクの運転も禁止です。

### 10. お問い合わせ

任国に関する質問や、この「赴任前留意事項」に記載のない内容についての質問は、以下のボランティア班共有アドレス宛てにメールでお問い合わせください。

※長期隊員の方は、お問い合わせは派遣前訓練開始以降に行ってください。

ボランティア班共有アドレス:jicafj-VC@jica.go.jp

## 11. その他

### (1) 現地生活情報

#### ➤ 食料・水

一般的な食材はマーケット、スーパー、個人商店などで購入できます。日本の食材(味噌、醤油、みりん、酢、料理酒、わさび、豆腐、海苔、鰹節等)はやや高価で種類や数は限られますが、スバでは入手可能です(輸入状況にもよりますので、ない場合もあります)。水道水は煮沸すれば飲むことができますが、フィジーのミネラルウォーターもあります。



#### ➤ 衣料

品質やデザインにこだわらなければ、現地で安価な日用衣料が購入できます。衣料品店は多く、種類も豊富です。また Bula Shirts(P2 参照)や Sulu Jaba(スルチャンバ:女性用のツーピースタイプのドレス→右写真)等はオーダーメイドも可能です。フィジー人は日本人に比べ大柄なため、小柄な方は下着類、靴類を持参した方がよいでしょう。また長距離バス乗車時、配属先や事務所等では冷房が効いて寒い場合があるため、長袖の衣類や上着も必要です。



#### ➤ 電気製品・電圧

電気製品は日本より高価で品種・機能も限定されます。

フィジーの電圧は 240V でコンセントの形状は「ハ」の字型(O タイプ)です。日本のコンセント形状の「I」型から「ハ」の字型に変換するアダプターはフィジーで購入可能です。



パソコンなど、AC アダプターに対応電圧 100~240V と記載があるものはプラグのみで使用可能ですが、日本から 100V の電気製品を持参する場合は変圧器が必要となります。240V →100V の変圧器は当国では入手困難な場合が多いため、日本から持参してください。

### (2) 自然災害

2009 年 1 月、2012 年 1 月・3 月、2016 年 2 月・4 月にサイクロンによる洪水が発生し、ナウソリ、ナンディ、バ、シンガトカ、ラキラキといった町が広範囲にわたって浸水する事態となりました。それ以外にも例年サイクロンシーズンとなる 11~4 月には大雨による洪水が各地で発生しています。洪水発生に備え、サイクロンシーズン(特に 12 月~3 月)にかけては、食糧(水を含む)の備蓄、携帯電話の充電、懐中電灯・ラジオの用意を心掛けておく必要があります。懐中電灯、ラジオはいずれもフィジーで入手可能です。

### (3) 国情報 下記の HP 情報等を参照ください。

- JICA フィジー事務所 <http://www.jica.go.jp/fiji/index.html>
- 外務省フィジー共和国 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/fiji/data.html>
- 世界の医療事情(フィジー) <https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/oceania/fiji.html>

## 【赴任にあたっての心構え】

フィジーは自然豊かな島国で、観光国としても有名です。周辺諸国の交通のハブ機能を持ち、都市部には大学が点在し、留学生も多く、大洋州の拠点とも言え、中進国としての側面があります。一方で、島嶼国の脆弱性もあり、様々な課題も抱えています。海外協力隊員としてフィジーに着任される皆さんにとっては、日本の生活や価値観がそのまま適用されない現実に戸惑ったり、不安に思ったり、不満が募ったりするでしょう。皆さんが培ってこられた経験はとても貴重です。とは言え、そのままを押し付けるのではなく、現地に合わせて工夫して、フィジーの人たちの目線で一緒に考えて、共に改善や発展を目指すことを心掛け、常に前向きに取り組んでいただきたいと思います。

活動は楽しいことばかりではありません。配属先の方々と目標を設定し、その目標に向かって計画を策定して活動を進めていただきますが、計画どおりにいかないこともあるでしょう。時に悔しい思いをし、時に悩み、苦しい自分と向き合うこともあるでしょう。それでも、フィジーの人たちの笑顔、ケレケレ(共有、共助)の文化の中で生活し、任期が終わる頃にはフィジーを第2の故郷と思えるような、他では得ることのできない素晴らしい経験をしていただきたいです。

現地では活動を円滑に進めることができるよう、JICA フィジー事務所の企画調査員(ボランティア事業: Volunteer Coordinator=VC)がサポートします。まずは「健康と安全は自分で守る」ことを忘れず、フィジーへの渡航に臨んでください。皆さんの到着をお待ちしています。



フィジーの国花「タンギモウジア」

以上